

平成30年度
第1回紀の川市地域公共交通活性化再生協議会
会 議 録

平成30年6月
紀の川市企画部地域創生課



会 議 録

□会議の名称 平成30年度第1回紀の川市地域公共交通活性化再生協議会

□開催日時 平成30年6月14日（木）
午後1時37分開会～午後3時15分閉会

□開催場所 紀の川市役所 本館5階 501会議室

□会議次第 1. 開 会
2. あいさつ
3. 委員紹介
4. 事務局紹介
5. 議 事
6. そ の 他
7. 閉 会

□会議資料 ○会議次第
○出席者名簿
○配席図
○議案書
(資料1) 地域公共交通確保維持改善事業及び地域巡回バス利用実績・市運行補助金の状況
(資料2) 紀の川市地域公共交通活性化再生協議会 規約（案）
(資料3) 平成31年度紀の川市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）
(資料4) 「地域連携サポートプラン」提案書
(資料5) 情報発信の取り組みについて（経路検索サービス「NAVITIME」への時刻表掲載）
(資料6) 紀の川市地域公共交通網形成計画の策定イメージ（案）

□会議の公開・非公開の別（非公開の場合はその理由）
公開

□傍聴人の数（公開した場合）
0人

□出席（欠席）委員
別紙「出席者名簿」のとおり

□事務局 (企画部) 部長 今城 崇光
(地域創生課) 課長 直田 武真
班長 高月 良和
主任 小河 慶高
副主査 西川 昌克

□会議録署名委員 桃山地区区長会 会長 植田 紳一
貴志川地区区長会 会長 南 勝

□議事進行

1. 開会 (午後 1 時 3 7 分)

○事務局 (直田) が、会議の開会を宣言する。

2. あいさつ

○林副市長が、あいさつをする。

3. 委員紹介

○事務局 (直田) が、会議への出席委員を紹介する。

4. 事務局紹介

○事務局 (直田) が、事務局を紹介する。

5. 議事

○公共交通会議会長の林副市長を議長に任命する。

○林副市長

会議録署名委員 2 名に、桃山地区区長会会長の植田紳一委員、貴志川地区区長会会長の南勝委員を指名する。

○林副市長

議案第 1 号「平成 2 9 年度事業報告について」および議案第 2 号「平成 2 9 年度紀の川市地域公共交通会議会計歳入歳出決算について」

2 つの議案を併せて、事務局へ説明を求める。

○事務局 (西川)

議案第 1 号および議案第 2 号について説明する。

○林副市長

会計監査報告を求める。

○長尾監査委員

平成29年度紀の川市地域公共交通会議会計歳入歳出決算について監査結果報告をする。

○林副市長

意見、質疑を委員に求める。

(意見、質疑等なし)

○林副市長

承認の確認をする。

【議案第1号および議案第2号を承認】

○林副市長

地域公共交通会議としての議事が終了したことを宣言。

議案第3号からの進行について、事務局へ説明を求める。

○事務局（西川）

議案第3号以降の進行について説明。

地域公共交通会議から地域公共交通活性化再生協議会への移行に伴い、紀の川市会計管理者が監査委員の任から外れ、途中退席となる旨を説明する。

○林副市長

紀の川市会計管理者にご退席をいただく。

○林副市長

議案第3号「規約の承認について」

事務局へ説明を求める。

○事務局（西川）

議案第3号について説明する。

○林副市長

意見、質疑を委員に求める。

○林副市長

承認の確認をする。

【議案第3号を承認】

規約に基づき、紀の川市林副市長が会長に、近畿大学経営学部高橋教授が副会長に、それぞれ就任する。

○林会長

監査委員 2 名の任命について、事務局へ事務局案の説明を求める。

○事務局（西川）

事務局案として、和歌山県企画部地域振興局総合交通政策課 長尾 課長と、岩出市総務部総務課 木村 総務部次長兼課長を推薦する。

○林会長

意見、質疑を委員に求める。

（意見、質疑等なし）

○林会長

監査委員として、和歌山県企画部地域振興局総合交通政策課 長尾 課長と、岩出市総務部総務課 木村 総務部次長兼課長の 2 名を任命する。

○林会長

規約に基づき、高橋副会長に議長を委譲する。

○高橋議長

議案第 4 号「平成 3 0 年度事業計画（案）について」
事務局へ説明を求める。

○事務局（西川）

議案第 4 号について説明する。

○林副市長

意見、質疑を委員に求める。

○恩賀委員より質疑

平成 2 2 ～ 2 3 年にも同じような議論をした記憶があるのだが、利用者数はこのままでいいのか？もっとわかりやすく、乗りやすくする取り組みが必要なのではないか？

何か良い案はないのか？

○事務局より回答

ただ今のご意見は、平成 2 9 年度に実施した形成計画¹策定に向けた事前調査からも伺っております。こうしたご意見を踏まえ、今年度中に形成計画を策定していく

¹ 「地域公共交通網形成計画」のこと。以下同様。

必要があると考えています。

形成計画の方向性については、この後の資料6でもご説明させていただく予定ですが、長大化しているバス路線を新たな交通手段に置き換えたりすることで、現在のバス路線を多頻度化するなど、対応策を検討中です。

○高橋議長

いただいたご意見は、形成計画策定に向けて、まさに検討しなければならないベースとなる部分です。人口減少等が懸念される点ではございますが、一気に押し寄せるものではなく、じわじわと進行するものですので、計画の中で「来年どうしよう」と、どこまで踏み込むか、慎重に検討する必要があります。

○高橋議長

議案第5号「平成30年度紀の川市地域公共交通会議会計歳入歳出予算（案）について」

事務局へ説明を求める。

○事務局（西川）

議案第5号について説明する。

○高橋議長

意見、質疑を委員に求める。

○衣川委員より意見

資料6に示されている形成計画のスケジュールでは、平成32年度、33年度に試行1年目、2年目となっていますが、デマンド型乗合交通においては事業者の選定や運行に向けた申請が必要になります。

決定してからで結構ですので、どうぞご相談ください。

○事務局（西川）

ありがとうございます。

○高橋議長

今回、第1回の協議会ということもあり、イメージやスケジュール案をご提示いただきました。人口減少や利用者減少は年々現れてきますが、今年度策定し、5年間の計画を立てる、ということでございます。

他にございませんか。

○長尾監査委員

資料6のスケジュール感を拝見しますと、10月ころに第2回の協議会開催を予

定されています。また、12月ころを見ますと、市議会でパブリックコメントに出す旨のご説明があるかと思えます。

であれば、12月議会の前に、協議会に対し形成計画（案）をお示しいただくことが望ましいと思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局（西川）

いただいたご意見のとおりだと考えています。

資料6でお示しした協議会開催日（案）については、皆さんにお集まりいただく協議会を前提にお示ししております。パブリックコメント前の形成計画（案）については、書面協議にて皆様にお送りしようと考えておりましたので、記載を省いております。

パブリックコメント前には、必ず皆様に案をお示ししようと考えております。

○長尾監査委員

もし、委員の皆様から修正等のご意見が多く寄せられた場合は、別途協議会を開催するという事でよいですか。

○事務局（西川）

はい。開催する必要があると考えています。

○衣川委員

基本的に、形成計画（案）は書面協議ではなく、お集まりいただいて協議をするほうが望ましいと考えます。

○事務局（西川）

では、資料6の第2回協議会の開催時期（案）を、10月ころではなく、もう少し後ろ倒しするという事でよろしいでしょうか。

○高橋議長

進めてみないと分からない、ということもあるかと思いますが、なるべく皆さんにお集まりいただいてコミュニケーションをとるほうが良い、ということも多いと思いますので、現時点では第2回の協議会を10月から11月と、幅を持たせた形で予定いただければと思います。

繰り返しになりますが、特にワークショップなどは、進めてみないと分からない、ということは多々あると思われます。ただ、今年度中に計画を完成させる、ということは期限を切って臨む必要がありますので、皆さんご協力をいただければと思います。

○高橋議長

承認の確認をする。

【議案第6号を承認】

6. その他

○高橋議長

今回は、第1回目の協議会ということもあり、参加いただいた交通事業者各社様また各団体様から、いろんな取り組みをご発表いただきたいと思います。

○土肥委員代理（和歌山バス那賀株式会社）

新たな取り組みとして、去年、コミュニティバスにIP無線を導入しました。今年は、粉河熊取線にも導入しています。

バスロケーションシステムまではまだ搭載できていませんが、お客様からの運行に関するお問い合わせにはリアルタイムでお答えできるようになりました。

○高橋議長

バス事業にも、IT・ICTに関する仕組みが取り入れられ、利用者の方にも分かりやすい案内ができるようになっていく、ということでございます。

○岩橋委員（有田交通株式会社）

私どもは、旧貴志川町の町内を、1日の走行距離で約200km、1台の車両で運行しています。それ故に、これ以上、もっと繊細に、ということは現在の車両数ではまかないきれない運行頻度だ、と考えています。

貴志川の方々にご理解をいただきながら運行をしているのですが、「急遽通院したいので、この便だけ逆回りにしてほしい」や「いつもと違う時間に走らせて」といったクイックサービスができない、というつらさがあります。かといって、「車両をもう1台増やせばどうだ」となりますが、確かに運行頻度は倍走られますので便利にはなりますが、果たしてそれだけの負担を私ども事業者や行政が負えるかどうか、というところが一番の課題になってくようかと思えます。

路線バスがご承知のとおり衰退し、利用者が減っていくということは、やはり自分の乗りたいときに来てくれないということがネックかと思えます。しかし、だからと言って紀の川市内全体でデマンドを走らせる、というのは無理な話です。

元々、デマンドというものは、合併前の旧町の規模で、コンパクトな運行をするのであれば、デマンドは最高のサービスだと思います。良い面ももちろんありますが、これだけ広域となれば、痒いところに手が届く、というようなことは難しい、ということが現実ではないか、と思えます。

引き続き、貴志川路線をご利用くださる皆様には精いっぱい努力をしてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

○高橋議長

車両不足にも触れていましたが、全国的に、バスに限らずタクシーも、ドライバー不足が深刻化しています。こうしたところも、対応していなければならない点です。ただいまのご発言には、非常に重みがあったかと思います。形成計画策定にあたっても参考にすべき点であろうかと思います。

紀の川市が誕生し、10年程が経過しましたが、合併の効果も見ながら、形成計画を策定できるという意味でも、このタイミングでの策定には非常に意味があるのかな、と思います。

○西脇委員（株式会社有交紀北）

私どもは、紀の川市とかつらぎ町で、小型タクシー21台、ジャンボタクシー2台、車いすのままご乗車いただける福祉車両3台、計26台で運行しているタクシー会社です。紀の川市では、赤沼田地区でのデマンド型乗合タクシーの運行をさせていただいています。

まだまだご利用者数は少ないですが、高齢の方を中心に大変喜んでいただいております。タクシーの置かれる状況は大変厳しいですが、運転手24名中16名はヘルパーの資格を有しており、介護タクシーの運行をしています。女性ドライバーも4名所属しており、やりがいをもって業務にあたっています。

ドア to ドアの交通であるタクシーが、今後の交通を担える部分もまだまだあると思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

○高橋議長

女性ドライバーの割合が全国的に比べても高いと思います。地域内で雇用を生み出すという観点からのご貢献をされていると思います。

○安東委員（一般社団法人和歌山県タクシー協会）

西脇委員からもございましたが、タクシーのみ、公共交通でドア to ドアができます。いつでも・どこへでも・誰でも、ということがタクシーの良さですが、「誰でも」となると、そうでないケースもあります。たとえば、車いすご利用の方が、お一人でご乗車いただく場合です。

ユニバーサルデザイン（UD）タクシーという車両があります。これは、障害者の方や妊婦の方など、誰もが使いやすいように工夫されたタクシーです。横乗りタイプと後乗りタイプの2種類があり、横乗りタイプは歩道やタクシー乗り場から乗車することができ、後乗りタイプは道路が狭隘な場所での乗降に適しております。

このUDタクシーがもっと普及すれば、移動制約者の方々のお出掛けがしやすくなるかと思います。しかし、車両購入価格については、高価となっています。要件を満たせば、国庫補助等を受けられ、全国24自治体でも補助を実施している地域がありますので、紀の川市でもぜひご検討をいただければ大変ありがたく思います。

また、UDタクシーは普及にはまだまだ時間がかかります。ですので、通常のセダンタイプのタクシーであってもご利用いただきやすいよう、ドライバーへ「ユニバーサルドライバー研修」を実施しています。1日7時間の研修と短時間ではありますが、効果的な内容となっています。和歌山県では、今年の1月から始まりまだ100人未満ですが、これから徐々に受講者が増えて参ろうかと思えます。

これからもタクシー事業者はバリアフリー化に努めて参りますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

○高橋議長

バリアフリー化について、車両のようなハード面と、人材研修といったソフト面からの取り組みについて、ご紹介いただきました。今後の形成計画策定においても参考とさせていただければと思います。

○藤原委員代理（西日本旅客鉄道株式会社和歌山支社）

平成5年には約6,900人の輸送密度でしたが、平成29年度には約4,500人と、3分の2程度にまで減少しています。今後も減少が進むことが想定される中、昨年から「ぼくらの和歌山線活性化プロジェクト（以下、ワカカツ）」として、様々な取り組みを実施してきました。

沿線高校生と連携したイベントでは、車内・駅舎でのコンサート、クリスマストレインの運行、しゃべり場トレインなどの取り組みを開催しました。

また、社内的にサイクリングにも力を入れようと、沿線地域のサイクリングイベントと連携したり、昨年11月に実証運行した「きのかわサイクルトレイン」、3月に実施された「わかやまサイクリングフェスタ」へのサイクルトレインコース新設など取り組んでいます。ほかに、和歌山線活性化検討委員会に関する事業や「ふる博」への参加などにも取り組んでいます。

また、これからの取り組みとして、2019年の春から新型車両の導入や2020年の春からのICエリア拡大などを予定しています。

○高橋議長

「ワカカツ」をはじめ、様々な取り組みをされておられると思います。新型車両はインパクトがある話だと思います。また、ICカードの導入は駅の役割が変わってくる話でもありますので、今後協議会でも議論する内容になってこようかと思います。

○麻生委員代理（和歌山電鐵株式会社）

和歌山電鐵でも利用者が減少傾向にあります。これまでは運営補助という形で、赤字補填があったが、それが終了しています。今は、施設の老朽化に対する改善は支援もあり対応が進んでいますが、赤字が続いている状況です。運営補助がなくなった段階で、苦渋の値上げもしましたが、このまま利用者の減少が続くと維持その

ものが難しくなってくると考えています。

最近の取り組みとしては、貨客混載に取り組んでいます。ただ、貨客混載を担うヤマト運輸様の自転車スタッフが人手不足で取り組みがここ1か月ほどストップしている状況です。

ほかに、去年からの取り組みとして、「小1ホリデーチケット」を配布しています。小学1年生であれば、無料でご乗車いただけるチケットで、幼少期＋親世代に乗っていただく取り組みをしています。

○高橋議長

ここ10年ほど、和歌山電鐵には全国に明るい話題を提供してきていただけてきましたが、苦勞されていることが示されました。曲がり角の要素もあるかと思います。

○高橋議長

ありがとうございました。

事務局から何か連絡事項があれば、お願いします。

○事務局（西川）

- 形成計画策定に向けた平成29年度事前調査結果の公開について、全体版を市ホームページにて公開します。
(意見、質疑等なし)
- 地域巡回バス「鞆渚駐在所前」バス停について、鞆渚駐在所が移転したため、バス停名称が適当でない状態にあります。しかし、バス停名称の変更には一定規模の財政負担が生じるため、形成計画策定後に他の変更等と合わせてバス停名称を見直します。本件は、地元区長様へも電話等でご説明します。
(意見、質疑等なし)
- 会議録の署名について、協力要請。
(意見、質疑等なし)

7. 閉会（午後3時15分）

以上、平成30年度第1回紀の川市地域公共交通活性化再生協議会の内容を記載し、その内容に相違ないことを証するためここに署名する。

平成30年6月25日

会 長 林 信 良 

署名委員 植 田 紳 一 

署名委員 南 勝 

平成30年度 第1回 紀の川市地域公共交通活性化再生協議会 出席者名簿

規約第4条に基づく 位置付け	所属	職名	氏名	備考
(1) 紀の川市の指名する者	紀の川市	副市長	林 信良	会長
	紀の川市	福祉部長	橋本 好秀	
	紀の川市	観光振興課長	室谷 信司	代理出席
	紀の川市	建設部長	前田 泰宏	
(2) 法第2条第2号に掲げる 公共交通事業者等及びその 組織する団体が推薦する者	和歌山バス那賀株式会社	業務課長	土肥 亮成	代理出席
	有田交通株式会社	代表取締役	岩橋 正典	
	株式会社有交紀北	代表取締役	西脇 正宜	
	一般社団法人和歌山県タ クシー協会	専務理事	安東 完爾	
	和歌山県交通運輸産業 労働組合協議会	バス部会長	田村 政博	
	西日本旅客鉄道株式会 社	総務企画課長	藤原 鋭	代理出席
	和歌山電鐵株式会社	総務企画部長	麻生 剛史	代理出席
(3) 住民又は利用者の代表	打田地区区長会	副会長	宇田 善博	代理出席
	粉河地区区長会	会長	恩賀 義之	
	那賀地区区長会	会長	平井 貴	
	桃山地区区長会	会長	植田 紳一	
	貴志川地区区長会	会長	南 勝	
(4) 近畿運輸局和歌山運輸 支局長又はその指名する者	和歌山運輸支局	首席運輸企画専門官	衣川 勝己	
	和歌山運輸支局	首席運輸企画専門官	森田 正志	
(5) 岩出警察署長又はその 指名する者	和歌山県警岩出署	署長	東山 一樹	
(6) 道路管理者、学識経験 者その他の協議会が必要と 認める者	近畿大学経営学部	教授	高橋 愛典	副会長
	和歌山河川国道事務所 和歌山国道維持出張所	所長	原 利恵子	
	和歌山県企画部地域振 興局総合交通政策課	課長	長尾 尚佳	監査委員
	那賀振興局建設部	副部長	松本 功	
	岩出市総務部総務課	課長	木村 清隆	監査委員
【決算監査報告終了まで】	紀の川市	会計管理者	浅野 徳彦	公共交通会議 監査委員
ご欠席 (2) 公共交通事業者等	公益社団法人和歌山県 バス協会	専務理事	森下 清司	欠席
ご欠席 (3) 住民又は利用者の代表	紀の川市身体障害者連 盟	会長	泉中 條子	欠席